1. 復興まちづくり計画の目的

- ●竜田駅西側復興まちづくり計画は、「楢葉町復興計画〈第二次〉第二版」に記載されていた基本理念「安全・安心な生活の再建」、「町民の主体的参加と自立」、「次世代への継承」、「広い視野に立つ復興」に係る各種の施策を横断的に整理し、竜田駅西側のまちづくりに重点を置いた「まちづくり計画」として、新たに策定するものです。
- ●本計画は、上位計画である「楢葉町復興計画」、「楢葉町土地利用計画アクションプラン」、「楢葉町地域防災計画」との整合を図りながら策定します。
- ●策定に当っては、町民に向け、竜田駅西側の復興まちづくりの方向性を示すとともに、「かつての賑わいや人と人とのふれあいを取り戻し、ふるさとを感じみんなが住みたくなる町『な・ら・は』の実現」を目指します。

2. 計画の策定に当たって

●計画の策定にあたり、上井出行政区に係る町 民等の意見や提案を計画に反映するために、 ワークショップや意向調査を実施し、いただ いた意見を参考に、庁内検討委員会で検討を 重ねながら『竜田駅西側復興まちづくり計画』 を策定しました。



3.計画期間

●本計画は、平成30年度から事業着手

4. ワークショップについて

- ●第1回: 平成29年 7月29日(土): まち歩きと合わせてまちの特性と課題について
- ●第2回: 平成29年10月15日(日): まちに対する思いや残したいモノ、改善したいモノ等について
- ●第3回: 平成29年11月 5日(日): まちづくりの将来の方向性について
- ●第4回: 平成29年12月10日(日): まちづくりのコンセプトとまちの事業について
- ●第5回:平成30年 1月28日(日):竜田駅西側復興まちづくり計画について

5. 町民からの主な意見

駅・広場・駅前について

- ●現駅舎の保全または、売店、観光・商工案内所への利活用
- ●祭りの場所としての利用
- ●休憩所、駐車場の整備
- ●交番の設置
- ●商店の復活によるほっこりとした賑わいのある駅前づくり

北小跡地利用について

- ●集客施設や専門学校、病院、イベント、住宅用地として活用
- ●樹木、記念樹、文庫、銅像、タイムカプセルの保存・移設

公共・公益施設について

- ●空き地の有効活用
- ●景観に配慮した街路(石畳、カラー舗装、照明)
- ●八石・西原線の道路拡幅(2車線歩道付)
- 駅前の通行規制(一方通行)
- ●駅と笑ふるタウンを結ぶアクセス道路の 整備
- ●安全に歩くための歩道の設置
- ●交通手段の確保(コミュニティバスの導入、 タクシー不足の解消)

6. 意向調査について

- ●目 的:計画の策定に伴い当該まちづくりの対象地区である上井出地区にお住まいの方や土地を所有している方の意見等を計画づくりに活かすことを目的として実施しました。
- ●実施期間:平成29年11月28日(火)~ 平成29年12月6日(水)
- ●回 収率:10.1%(発送数:526件、回答数:53件)
- ●調査結果:主な設問として「竜田駅西側の魅力や利便性の向上を図るために必要だと思う施設」に関する結果を下記に示します。



7. 復興まちづくり計画の基本方針

災害時の安全性と平常時の利便性を兼ね備えた安全・安心な市街地の形成

- ●県道等、幹線道路に繋がる道路の一部拡幅による歩行空間と災害時における避難路を確保します。
- 空き地などを整備し、平常時には公園や広場として活用し、災害時には避難場所となる空間を確保します。

地元商店の再建や古民家等の地域資源を活用した"思い出の商店"の再生

- 駅前通りを中心に震災前の地元商店の再建を目指します。
- 住民の意向を踏まえた取り組み等による、昔ながらの賑わい再生を目指します。
- 地域資源(古民家、空き地、空き家等)を活かした賑わい空間の創出を目指します。

まちの玄関口である」R竜田駅西側駅前空間の有効活用による地域交流拠点の形成

- ●まちの玄関口として、周辺の観光資源と地域を繋ぐ結節点の形成を目指します。
- ●東西自由通路の整備による東側との交流促進を目指します。
- ●駅前空間や現駅舎の活用(直売所、夏祭り等)による地域内外における交流拠点の形成を目指します。

豊かな自然環境や昔ながらの家並みなど、"楢葉らしさ"を感じられる原風景の継承

- 緑豊かな自然環境や起伏のある地形、瓦屋根、大きな敷地、個性あふれる家屋等、"楢葉らしさ"を感じられる原風景を継承します。
- ●まちなかの屋敷林や木々に囲まれた路地等、緑を感じられる地域資源を保全します。

